

2026年6月期 決算説明資料

株式会社エンビプロ・ホールディングス
(証券コード : 5698)

2026年8月13日

目次

1. 2026年6月期 決算概要

2. 2027年6月期 見通し

3. 今後の主な取り組み

4. 参考資料

【業績のポイント】

- 取引形態の一部変更に伴う収益認識基準の適用により、売上高が**減少**
- **構造改革の成果の表面化**や**主要金属価格の上昇**により主要セグメントで**増益**
- **選別技術の深化**および**回収・販売強化**により、収益の改善が**進展**

(単位：百万円)

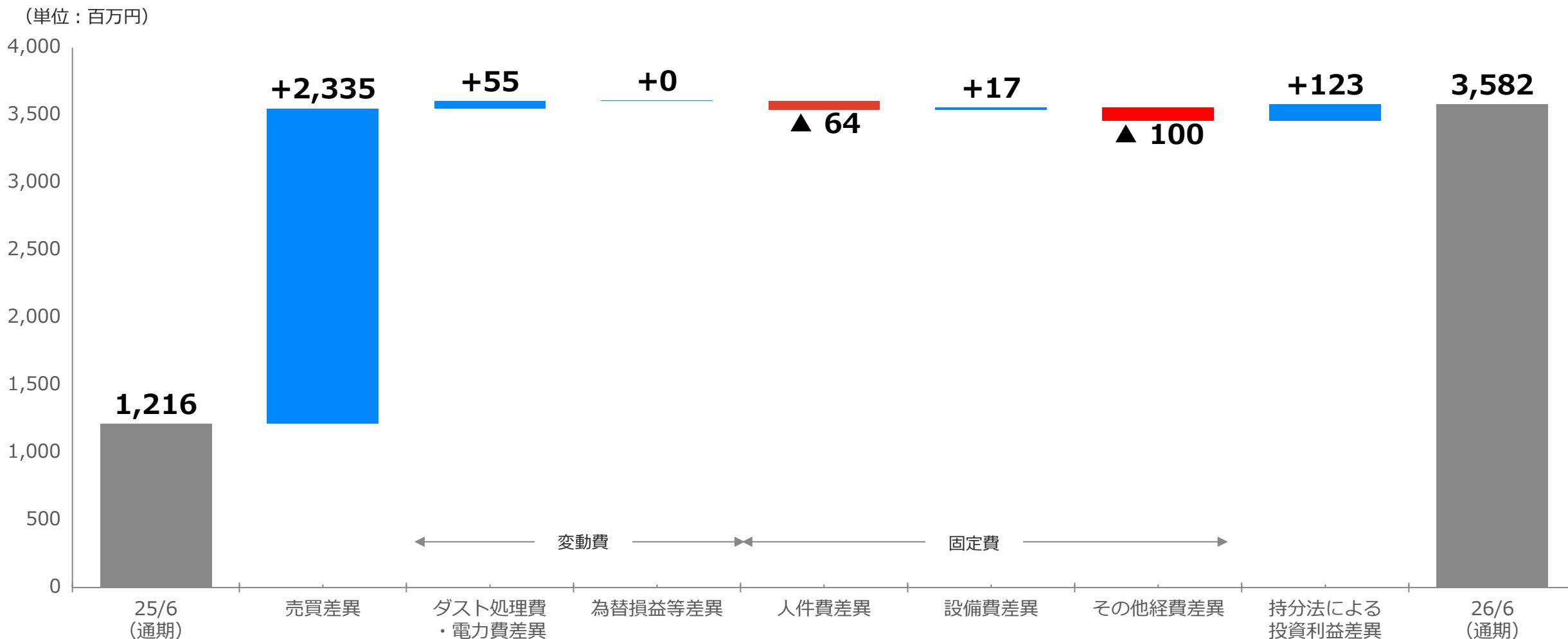
	2025年6月期	2026年6月期		
	実績	実績	前期比	
			増減額	増減率
取扱量（千t）	611	491	▲120	▲19.6%
売上高	49,090	44,430	▲4,660	▲9.5%
営業利益	972	3,224	2,252	231.6%
経常利益	1,216	3,582	2,366	194.6%
税引前利益	1,516	3,366	1,850	122.0%
純利益*	1,175	2,423	1,248	106.2%
限界利益*	9,877	12,268	2,391	24.2%
EBITDA*	2,345	4,624	2,279	97.2%

2026年6月期	
7/30開示予想	進捗率
490	100.2%
44,400	100.1%
3,200	100.8%
3,500	102.4%
-	-
2,400	101.0%
-	-
-	-

*純利益：親会社株主に帰属する当期純利益 *限界利益＝売上高－変動費 *EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却

決算概要▶連結経常利益差異分析（前期比）

- **売買差異** : 高付加価値品の回収・販売の強化や主要金属価格の上昇等により利幅が拡大
- **人件費差異** : 定期昇給及びベースアップによる影響



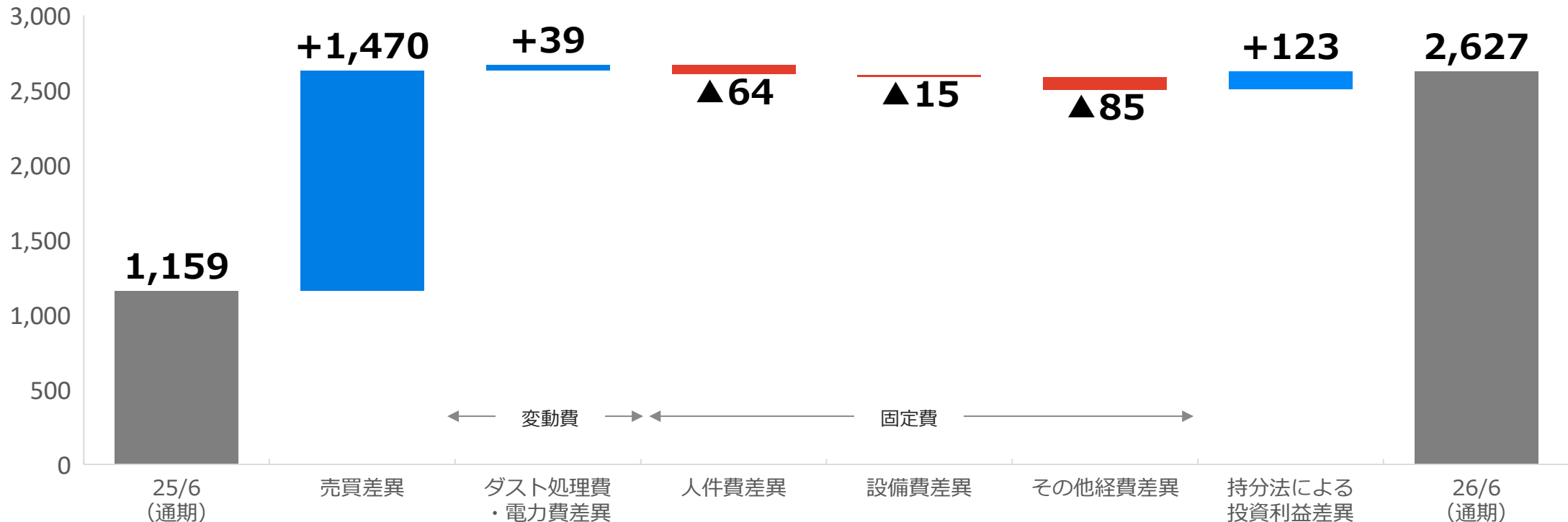
(単位：百万円)

		2024年 6 月期	2025年 6 月期	2026年 6 月期
		実績	実績	実績
資源循環事業	取扱量（千 t）	249	237	239
	売上高	21,254	21,015	23,940
	セグメント利益	1,621	1,159	2,627
グローバル トレーディング事業	取扱量（千 t）	490	464	344
	売上高	34,955	31,590	24,730
	セグメント利益	411	269	703
リチウムイオン電池 リサイクル事業	売上高	1,570	1,693	2,641
	セグメント利益	218	223	704
その他	売上高	491	491	450
	セグメント利益	108	95	40

資源循環事業

- 金属資源循環事業では主要金属価格が上昇する中、選別技術を深化させ高付加価値品の回収・販売を強化したことにより収益の改善が進展
- ポリマー資源循環事業は構造改革の成果が継続的に寄与し、取引条件の適正化が進んだことに加えて受注も好調に推移

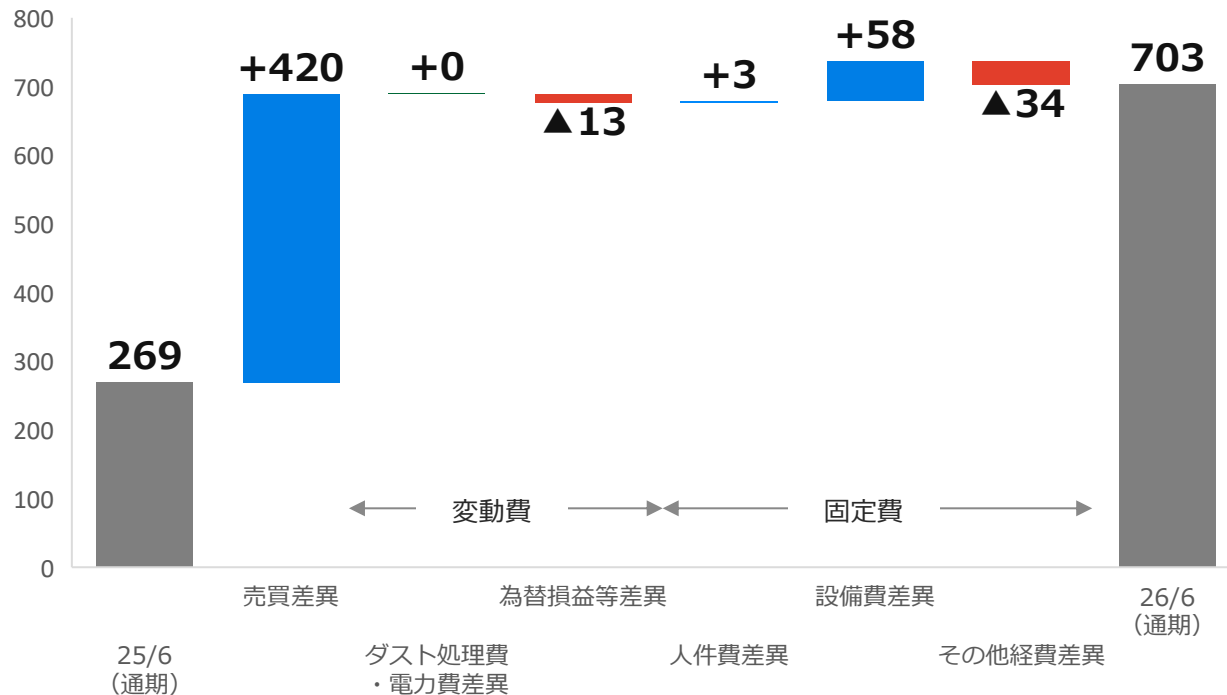
(単位：百万円)



グローバルトレーディング事業

- 金属原料のトレーディング事業は構造改革の成果が徐々に表れる中、主要金属価格の上昇や新たな販路開拓等により収益性は大きく向上し、大幅な増益を達成
- 物流代行サービス事業は需給バランスを見極め、適正価格でサービスを提供したことにより堅調に推移
- ホルムズ海峡の実質的な封鎖が、ドバイ向けの貨物に影響

(単位：百万円)



リチウムイオン電池リサイクル事業

- 電池材料に用いられるリチウム及びコバルト相場が堅調に推移
- 加工受託案件を中心に取扱量を増加させたことにより増収増益
- 加工委託先において火災が発生し在庫消失等により特別損失を計上

その他

〈障がい福祉サービス事業〉

- 登録利用者の減少等により減収減益

〈サステナビリティコンサルティング事業〉

- 受注が減少したことにより減収減益

2025年6月末



2026年6月末

(単位：百万円)

流動資産 15,874 現金及び預金 7,007	負債 13,989 有利子負債 7,735
固定資産 15,424 有形固定資産 10,975	純資産 17,309 自己資本 16,898 自己株式 ▲788

資産合計 31,299

流動資産 19,065 現金及び預金 7,497	負債 15,582 有利子負債 6,767
固定資産 15,647 有形固定資産 10,773	純資産 19,129 自己資本 18,792 自己株式 ▲871

資産合計 34,712

(単位：百万円)

	2025年6月期	2026年6月期	増減額	TOPICS
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,469	3,071	▲398	(収入) 税金等調整前当期純利益3,366百万円、減価償却費1,396百万円、仕入債務の増減額1,367百万円 (支出) 棚卸資産の増減額1,416百万円、売上債権の増減額1,214百万円、持分法による投資利益513百万円
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,328	▲910	417	(支出) 有形固定資産の取得947百万円
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲2,075	▲1,669	405	(収入) 長期借入金の借入500百万円 (支出) 長期借入金の返済1,007百万円、短期借入金の純減少額460百万円、配当金の支払額429百万円
現金及び現金同等物に係る換算差額	26	29	3	
現金及び現金同等物の増減額	92	522	429	
現金及び現金同等物の期首残高	6,771	6,864	92	
現金及び現金同等物の期末残高	6,864	7,386	522	

目次

1. 2026年6月期 決算概要

2. 2027年6月期 見通し

3. 今後の主な取り組み

4. 参考資料

見通し▶2027年 6 月期 連結業績予想

	2026年 6 月期	2027年 6 月期		
	実績	予想	前期比	
			増減額	増減率
取扱量（千 t）	491	550	59	12.0%
売上高	44,430	49,000	4,569	10.3%
営業利益	3,224	2,700	▲ 524	▲16.3%
経常利益	3,582	3,100	▲ 482	▲13.5%
税引前利益	3,366	3,100	▲ 266	▲7.9%
当期純利益*	2,423	2,100	▲ 323	▲13.4%
限界利益*	12,268	-	-	-
EBITDA*	4,624	-	-	-
ROE	13.6%	11.1%	▲2.5%	-

*当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益

*限界利益＝売上高－変動費

*EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却

業績予想の前提条件

鉄スクラップ	電気銅	金	銀	ニッケル	コバルト	為替
46,000円/ t	2,000円/kg	23,000円/g	400円/g	2,500円/kg	8,500円/kg	150円/USD

見通し▶2027年6月期 セグメント別業績予想

(単位：百万円)

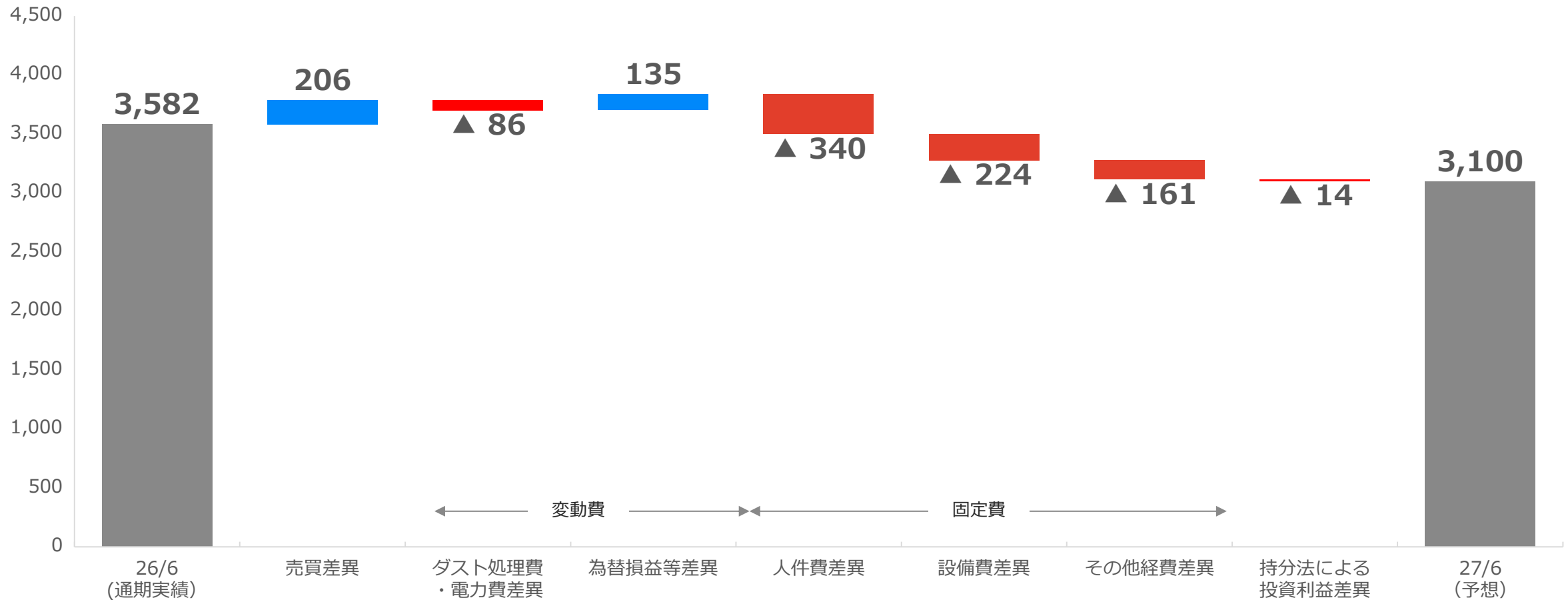
売上高	2026年6月期	2027年6月期			
	実績	予想	増減額	増減率	構成比
連結	44,430	49,000	4,570	10.3%	100.0%
資源循環事業	23,940	26,600	2,659	11.1%	48.0%
グローバルトレーディング事業	24,730	26,600	1,869	7.6%	48.0%
LIBリサイクル事業	2,641	1,750	▲891	▲33.7%	3.2%
その他	450	500	49	10.9%	0.9%
調整額	▲7,332	▲6,450	882	-	-

セグメント利益	2026年6月期	2027年6月期			
	実績	予想	増減額	増減率	構成比
連結	3,582	3,100	▲482	▲13.5%	100.0%
資源循環事業	2,627	2,900	272	10.4%	82.9%
グローバルトレーディング事業	703	500	▲203	▲29.0%	14.3%
LIBリサイクル事業	704	50	▲654	▲92.9%	1.4%
その他	40	50	9	22.9%	1.4%
調整額	▲494	▲400	94	-	-

見通し▶連結経常利益差異分析（前期比）

- **売買差異**：リチウムイオン電池リサイクル事業の生産・販売減少の影響があるものの、資源循環事業の深化、深堀、高度化により増加
- **人件費差異**：持続的な定期昇給及びベースアップなどの待遇改善により増加
- **設備費差異**：新規設備投資と当該設備の稼働により減価償却費が増加

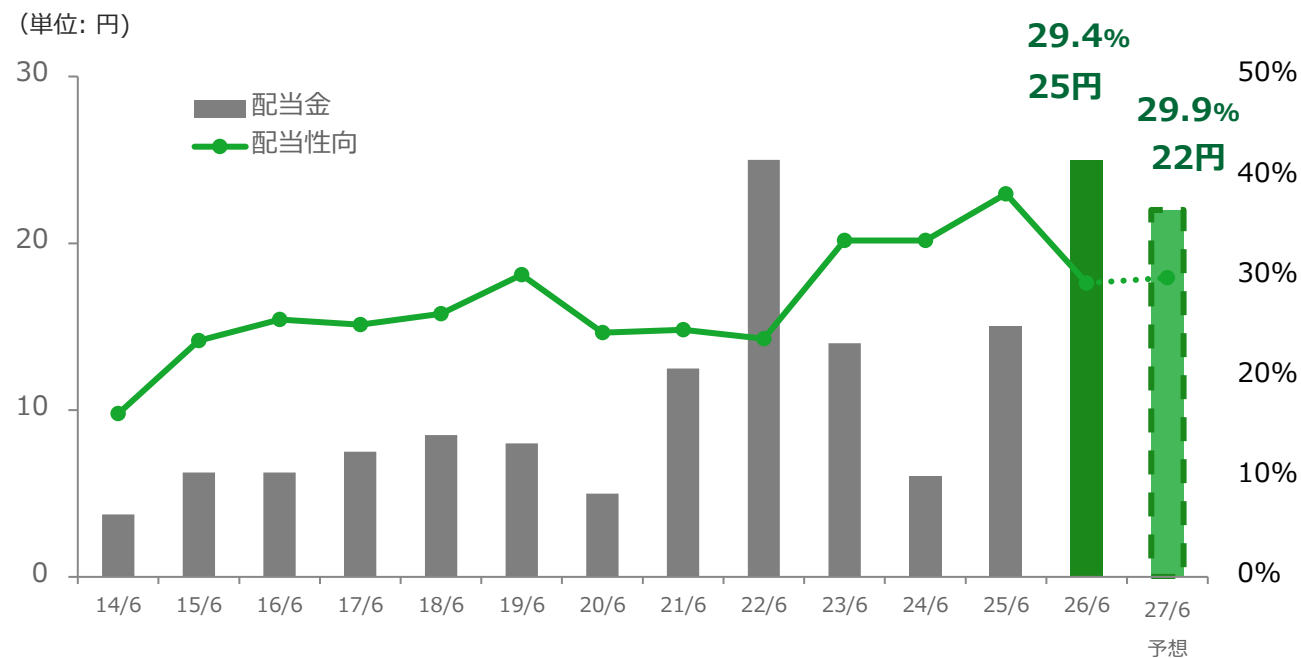
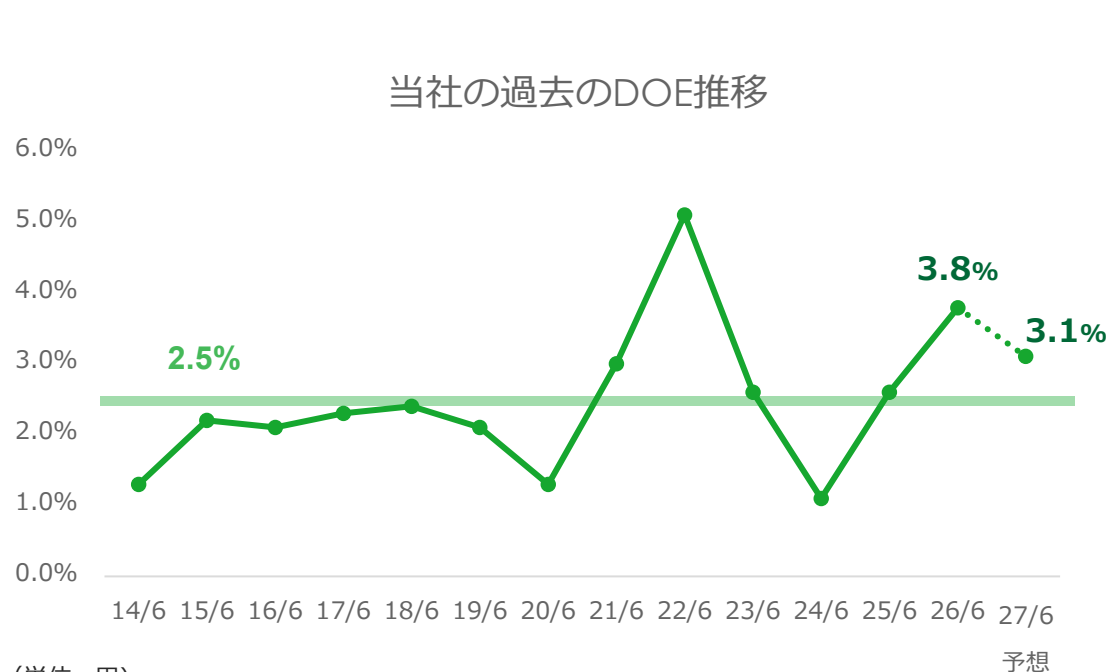
（単位：百万円）



配当基本方針

■ 配当基本方針：株主資本配当率（DOE）2.5%を下限

人件費などの上昇や積極的な設備投資を行う中で短期的に利益が変動する局面においても、安定的かつ持続的な株主還元を実現



	2014/6	2015/6	2016/6	2017/6	2018/6	2019/6	2020/6	2021/6	2022/6	2023/6	2024/6	2025/6	2026/6	2027/6
株価(6月末)	140	178	139	174	369	300	292	614	794	552	479	483	831	-
1株配当金	3.75	6.25	6.25	7.5	8.5	8	5	12.5	25	14	6	15	25	22
配当性向	16.3%	23.6%	25.7%	25.2%	26.3%	30.2%	24.4%	24.7%	23.8%	33.6%	33.6%	38.3%	29.4%	29.9%
総還元性向	16.3%	23.6%	25.7%	25.2%	26.3%	64.5%	24.4%	24.7%	23.8%	33.6%	33.6%	103.7%	36.5%	29.9%

※2019年6月期に273百万円、2025年6月期に788百万円、2026年6月期に172百万円の自己株式の取得を実施

目次

1. 2026年6月期 決算概要

2. 2027年6月期 見通し

3. 今後の主な取り組み

4. 参考資料

都市鉱山に含まれる未利用資源を社会に戻すことでCEをリードする

破碎選別技術を起点に、破碎・焼却残渣からの金銀滓の回収を通じて都市鉱山を開発する

生産性向上と同時に極限まで付加価値を高める事業の仕組みづくり

技術

当社グループ独自の技術を付加する

- 生産フロー全般の改善（工程開発）で金銀滓の品位向上に対する取り組みを継続
- 分析機能を事業会社に移管し、生産フローの改善効果を定量的に検証し改善に活かす取り組みを強化

既存のフロー



量

広域回収・広域展開を実現する

- 自治体・製造業、同業者等、様々な顧客チャネルを深掘し取引母集団を拡大していく
- グループ会社の取引接点を活用し金銀滓を含有する複合材の取扱量を拡大していく

✓ 「廃棄物処理施設の発注仕様書の作成手引き」へ 「落じん灰」掲載

2026年3月 環境省により2013年11月ぶりのガイドライン改定

廃棄物処理施設の発注仕様書及び要求水準書作成の手引き（標準発注仕様書・要求水準書及びその解説）に、「灰の再資源化としてセメント原料化やスラグ化のほか、**落じん灰を資源回収する事例もある**」と記載されました。手引きには、**新設工事・基幹的設備改良事業についてこれを準用する**とあります。

自治体、民間のリサイクル施設での事故等の社会課題を解決すること、
枯渇が懸念される金属等を回収し循環させることでCEをリードする

市場環境 | 国内LIBに係る状況

- **小型LIB**：発火事故の急増や**指定再資源化製品の対象拡大**（2026年4月施行）により小型LIBの回収量増加を想定
- **大型LIB（車載）**：足元は成長鈍化も、緩やかな成長を継続と想定
- **大型LIB（ESS*）**：系統用、データセンター向け蓄電池の需要が急拡大

内部要因 | 生産能力の制限

- **加工委託先の罹災**：今期は生産能力に制限がかかった状態が継続することを想定
- **生産能力が落ち込み前期に対し製品販売量が減少することで、大幅な減収減益を想定**

市場環境、内部要因を受けた今期のアクションプラン

① 既存システムの改善

- **処理量UP**
処理工程の改善により生産性を向上
- **ブラックマス*回収率UP**
一部設備の改良によりブラックマス回収率を向上

② 新工場計画推進

- **新工場計画を推進**
生産能力大幅増強にむけて工場候補地及び設備仕様選定中

③ オープンシナジーによる集荷

- **グループ各社と連携し回収ネットワークを拡大**（小型家電・自治体連携、海外原料ソーシング等）
- **小型家電リサイクル業者等を中心としたグループ外のパートナーや多角的な社外ネットワークを構築し回収網を拡大**

一旦、業績は落ち込む形となるが、アクションプランの着実な実行により再成長できる基盤整備を進行していく。

*ESS：エネルギー貯蔵システム。電力を貯蔵し、必要な時に取り出して使用するための装置を指す

*ブラックマス：リチウムイオン電池を放電・乾燥・破碎・選別したリチウム、コバルト、ニッケルの濃縮滓

技術進化に合わせ3つのアプローチを組み合わせポリマー資源循環を促進することでCEをリードする

サーマルリカバリー

低炭素原燃料事業の強化

- 複合材前処理破砕機を更新
第1四半期予定（静岡県富士宮市）
- 廃プラスチック破砕ラインを改良
上期予定（北海道函館市）

前期のRPF*新工場稼働に引き続き
低炭素原燃料の供給体制を強化

前処理破砕機（更新中）



改修破砕機



セメントフラフ



マテリアルリサイクル

再生材を用いたCE新製品の開発・拡販

- 廃タイヤチップ、廃ゴムを配合したCEゴムマットの製造能力増強
下期予定（神奈川県高座郡寒川町）
- 再生プラスチックを配合した人工芝用カラーゴムチップ上市
上期予定（群馬県前橋市）

新設備導入のための工場内整備完了



再生プラスチック配合
人工芝用カラーゴムチップ



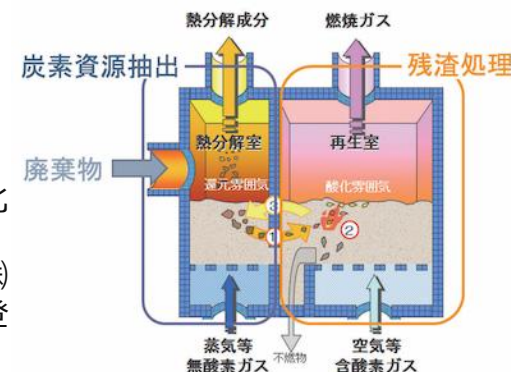
ケミカルリサイクル

廃プラスチックのケミカルリサイクルの
実証事業において原料調達管理を担当

- 社会実装に向けた取り組みの一環として、ケミカルリサイクル実証事業
に対し原料の廃プラスチック類を提供
前期に引き続き様々な廃プラスチックを用いた試験研究が進行中

ケミカルリサイクル 実証プラント

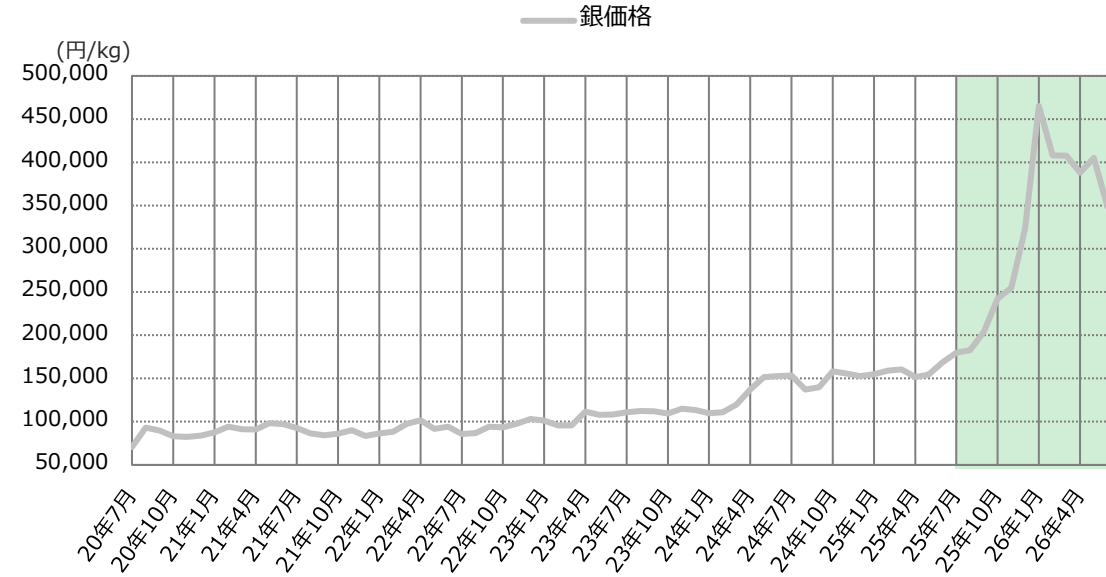
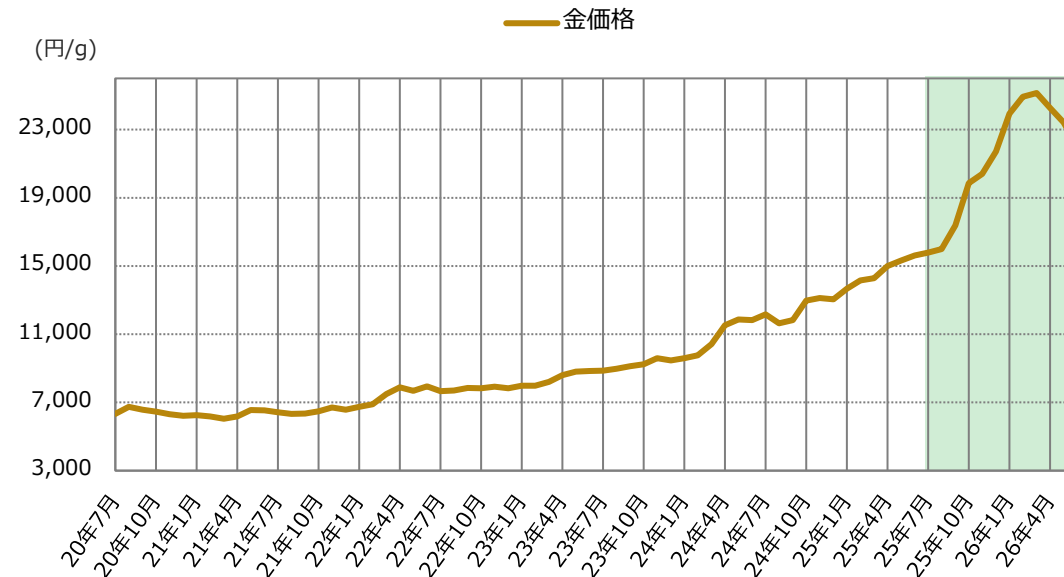
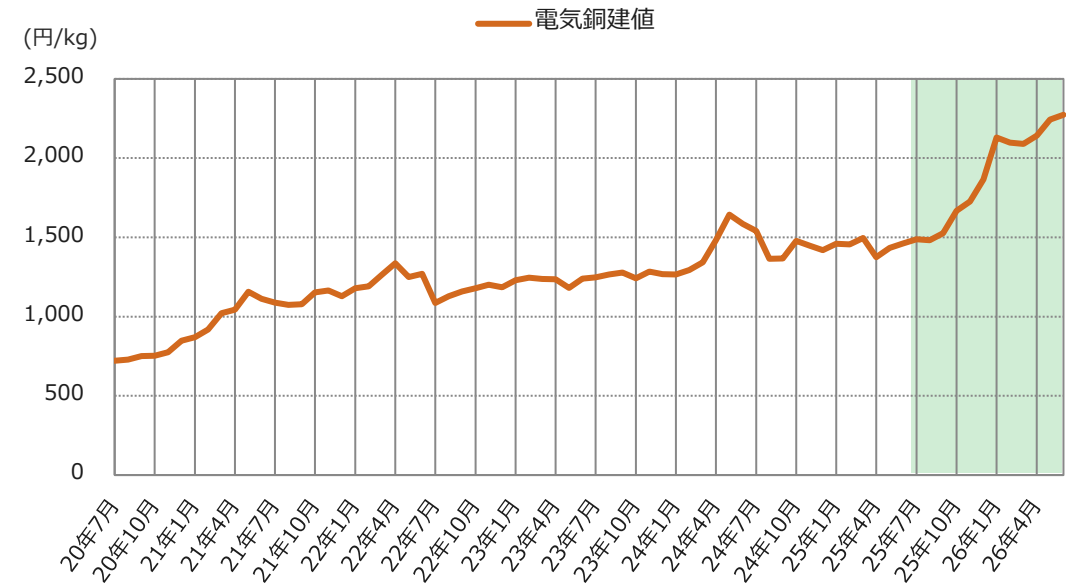
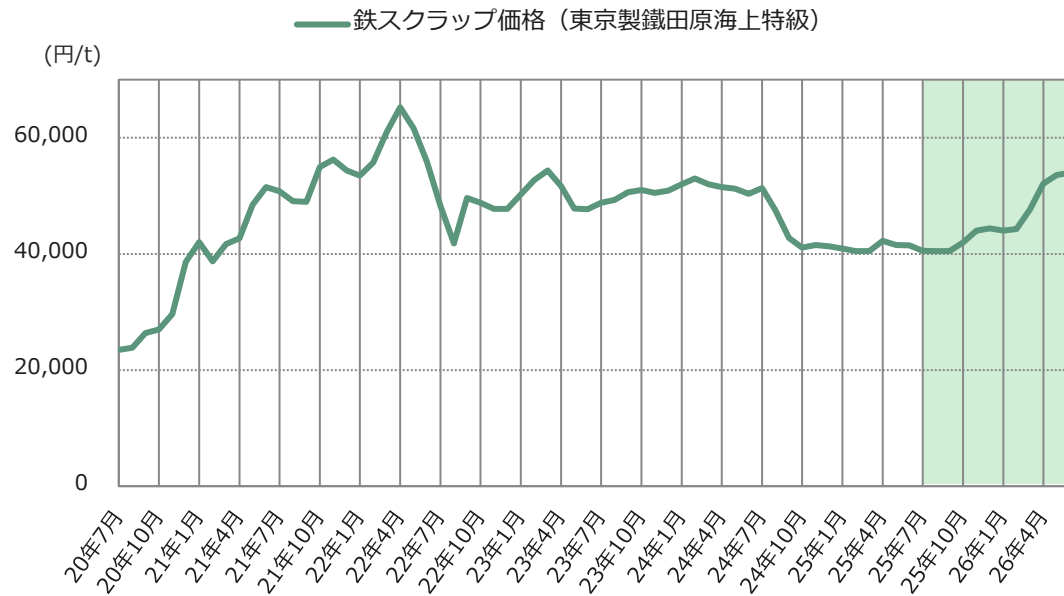
ICFG® ※
内部循環流動床ガス化
システム
※荏原環境プラント(株)
の日本における商標登
録です。

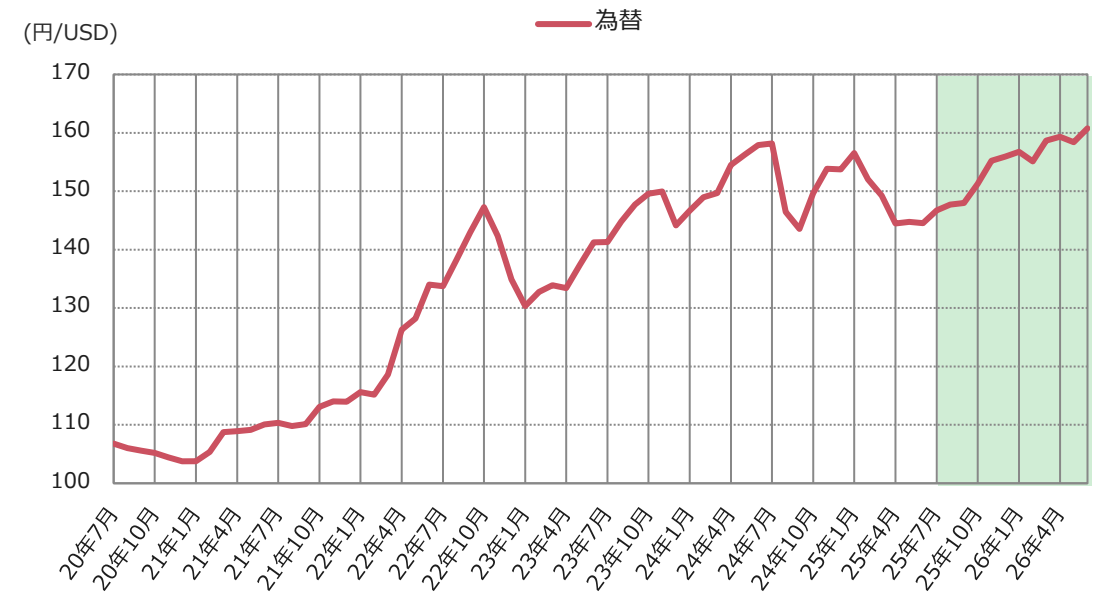
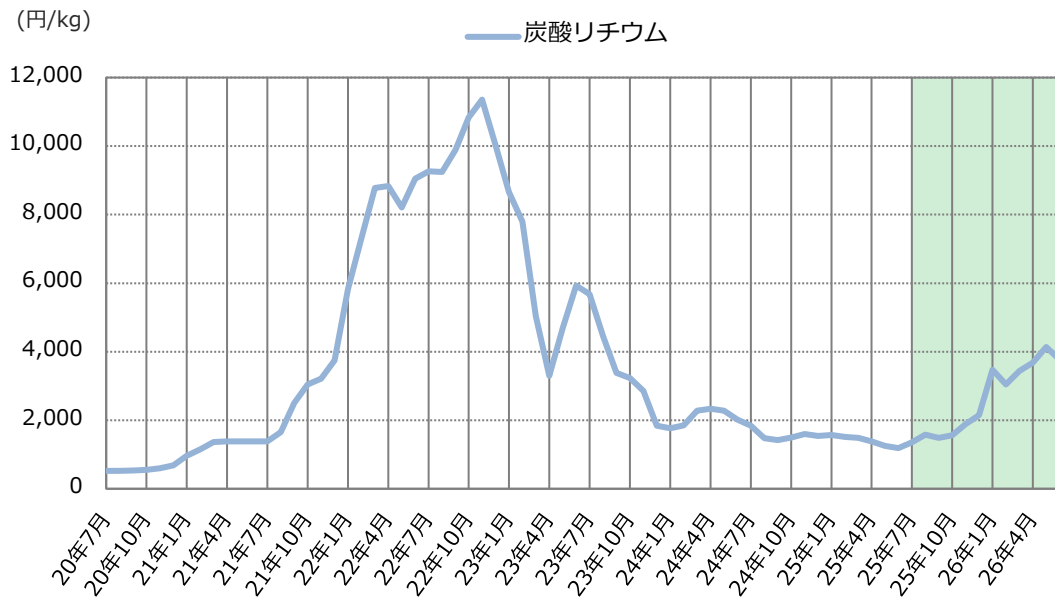
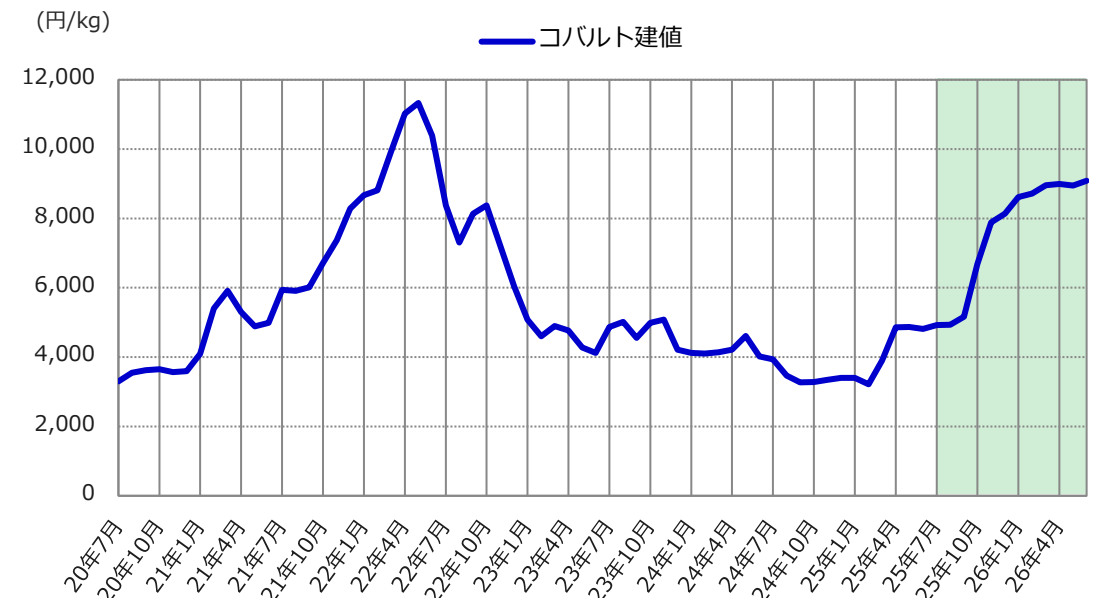
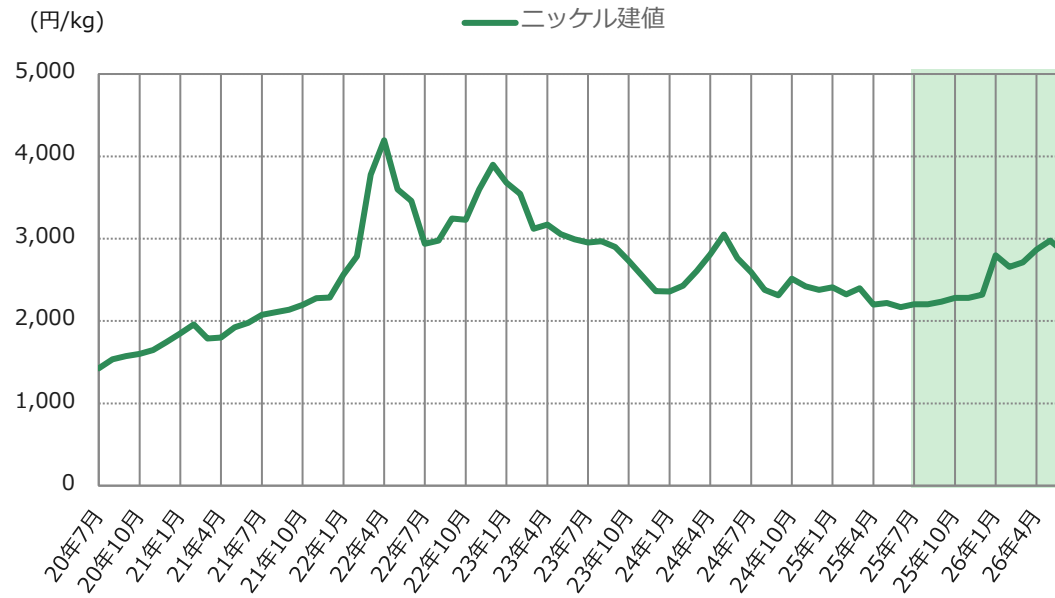


*RPF：廃プラスチック類と紙ごみ類を主原料に圧縮してつくる、CO₂排出量を削減できる環境配慮型燃料

目次

1. 2026年6月期 決算概要
2. 2027年6月期 見通し
3. 今後の主な取り組み
4. 参考資料





(出所) IRuniverse(株)、(株)三菱UFJ銀行

本資料に関する注意事項

本資料は投資家の参考に資するよう、株式会社エンビプロ・ホールディングスの現状を理解していただくために作成したものです。

本資料に記載された内容は、現時点において一般に認識されている経済・社会等の情勢及び弊社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。



本資料及びIRに関するお問い合わせ先

株式会社エンビプロ・ホールディングス
経営管理部

TEL (0544) 21-3160

URL <https://www.envipro.jp/>